

出題のねらい

㊦は小説、山本兼一著『利休にたずねよ』からの出題です。小説を読むことは、そこに描かれる登場人物の置かれている状況と心情の動きを読み解く能力が必要で、その能力は、人間の曖昧で計り得ない部分を探ることにつながるものです。一見、曖昧だと思える表現を、前後の文脈から、出題者が正解と思うものにとどりつのが、解答を作るという行為です。

さて、今回の話は、茶器の目利きには優れた力を持つ山上宗二が、茶席で天下人豊臣秀吉を怒らせて放逐されてしまうというものです。流浪の日々で、佗び茶や佗び三昧に倦み疲れた宗二は、秀吉に謝って茶会に招いてもらったにもかかわらず、再び秀吉を怒らせて追放されます。そしてもう一度、機会を得て師匠の千利休に逢い、反省の言葉を口にする場面です。

茶の湯には、道具の目利きが大切で、その場に合った素晴らしい茶器を使うことが茶の湯だと信じる宗二は、苦勞したために、口は災いの元だと学び、茶の湯にとって素晴らしい道具は重要なものだが、茶会では思った通りのことを口にして追放されるバカにはなるまいと反省しますが、利休は、その、「茶の湯にとって素晴らしい道具は重要」という考えを否定し、茶の湯にとって最も重要なものは、「同席した人を心から楽しませ、もてなすことが重要」だと論じます。

山上宗二と千利休の、茶の湯への考え方の違いを読み解くことが大切でした。

㊦は、国語学者である渡辺実著『国語意味論』からの出題です。言葉と経験と意味の問題を考えるという難易度の高い課題であったと思いますが、具体的なエピソードに基づいた説明が多いので、筆者の考えは大方理解できたのではないのでしょうか。

出題意図は、言葉を豊かにすることと人間形成に密接な関係があるという筆者の主張を知ることは、若いみなさんに益するところがあるだろうということが一つ。それと同時に、なぜ経験と言葉と意味の結びつきの豊かさが人間形成にとって重要なのかということと言語学的に説明している論理的な文章ですから、それを読み取る力を見ることができるといことがありました。

言葉の意味は単に辞書的な概念によってではなく、経験によって確固たるものになっていく。だから経験との結びつきを欠いた言葉は上すべりであり、逆に言葉を知らないと、せっかくの経験をどう位置づければいいのかわからず経験の違いを弁別できなくなる。言葉と経験と意味の三つが有機的に結びついている時、人間としての心の豊かさを得ることができるとい点を掴んでもらえたらと思います。



【解答】(50点)

問一	a ほうちく	b ふしん	c すや(き)	
	d いそうろう	e いまし(め)	(各2点×5)	
問二	A エ	B ア	C ウ	(各2点×3)
問三	秀吉			(3点)
問四	エ			(2点)
問五	(かつて)茶の席はその座にいる人が同等に茶や道具を愛で合うものである。			(5点)
	(現在)茶人にとっての生計を立てる場で、同席する人を敬うものである。			(5点)
問六	暗喩又は隠喩			(3点)
問七	道具を正しく評価するのではなく、自分の評価をいつわる表現をする。			(8点)
問八	ウ			(4点)
問九	イ			(4点)

【解説】

問一 難読漢字を読む問題です。日常的に耳にするような言葉も漢字になると意外に読めないものです。新聞を読んだり小説を読んだりするときも、声に出したり、読めないときはすぐに辞書を引くなどして、自分の漢字力・語彙力を高めましょう。a「ほうちく」の正答率は高かったです。b「ふしん」が正答率が低く、c「すやき」は、「すがたやき」の誤答がいくつか見られました。文脈に入れると、たこの姿をした建水(水差し)を利休が用いて、秀吉に不審な顔をされるというおかしな話になりますね。d「いそうろう」は正答率が高かったです。e「いましめ」は正答率が低かったです。

問二 「腹が煮えくりかえる」「頭をふる」「へそをまげる」といった慣用表現に関する問題。選択肢のある空欄補充でしたから、正答率は高かったです。

問三 登場人物の別名を答える問題。登場人物の中で「天下人」と呼べる存在を答えます。傍線部の直前の「興趣を理解せぬ」もヒントに成ったと思います。正答率は高かったです。

問四 内容説明問題。本文中で、宗二が自分の行為を振り返って、自らを「愚か者」と呼んでいることに注目します。主語が分かれば、正答を見つけるのは容易でしたね。正答率も高かったです。

問五 記述問題。山上宗二が、「茶の席」のことを、かつてどのように考えていて、今はどのように解釈しているかをまとめる問題でした。かつての方は、「その座に居る人が同等に」が2点、「茶や道具を愛

で合う」が3点です。前半は「同等」、後半は「茶や道具」と二つともが書けていることが重要ポイントとなります。前半の「同等」は良く書けていたが、「茶や道具」と二つとも書けていない人や、「愛で合う」という表現ができていない人が2割ほど見られました。

現在の方は、「生計を立てる場」が2点、「同席する人を敬う」が3点です。前半の「生計を立てる」は本文中の「身過ぎ世過ぎの娑婆世界」を用いた解答も正解としました。ただ、後半の「同席する人を敬う」は正答率が低く、1割程度でした。

問六 修辞法について問う問題。「たとえば」「ような」などの語を使う比喩の方法を「直喩」というのに対し、「氷の女」「彼女は天使だ」といった、「ようだ」「みたいだ」といった語を使わない仕方を「隠喩」または「暗喩」と言います。正答率は5割程度でした。「喩」の漢字が「諭」となっていたり、誤字が多かったりしたのは残念でした。正しく覚えておきましょう。

問七 記述問題。主題にかかわる説明問題です。「道具を正しく評価するのではなく」が4点、「自分の評価をいつわる表現をする」が4点で、採点しました。前半は「道具」の「目利き」を曲げることの説明ができていたことが大切です。後半は「誤魔化す」ということが、「自分の評価をいつわる」ことであると表現することが大切でした。前半の正答率は高かったのですが、後半は、「誤魔化す」の説明が難しかったようです。「正しいと思うことを言わない」「黙っている」といった表現でも正解扱いにしました。それでも、正答率は5割程度でした。漢字の間違いは、1点減点となります。注意しましょう。

問八 内容説明問題（客観式）。「心が風邪をひく」という表現は、実際に病になることではなく、毎日の生活が冷えたように感じるということです。宗二は旅の空で、何を失くしたと感じたのかを把握することが大切です。傍線部の直後で、宗二が、「侘びに身をやつすなどということは、立派な家屋敷があつての愉しみ」と語っていることがヒントになりますね。正答率は8割程度で、誤答は、「ア」の「帰る場所を失い、精神を病む」は、「風邪をひく」を文字通りに受け取ってしまったようです。

問九 内容説明問題（客観式）。宗二の「茶の湯」に対する考え方と、利休の考え方の違いを把握することが大切です。利休は、道具よりも、「客をもてなす」ことを重要だと考えていたのですね。正答率は高かったです。



【解答】(50点)

問一	a 家畜	b 格別	c 間断	
	d 喚起	e 指摘		(各2点×5)
問二	イ			(2点)
問三	A 経験	B 言葉	C 表現	D 理解
				(各2点×4)
問四	無限の経験を一つの言葉に結びつける(能力)(4点)			
問五	エ			(3点)
問六	異なる経験を弁別する力をつけ、自分の経験したものを最もふさわしい言葉で表わすことができるようになる。(8点)			
問七	人間形成 (3点)			
問八	i ア	ii エ		(各3点×2)
問九	三位一体 (3点)			
問十	ア (3点)			

【解説】

問一 漢字によって出来不出来がありました。よくできていたのが、b「格別」で8割近くが正答。一方正答率が低かったのは、c「間断」で3割程度の出来でした。これは間断という言葉を知らない可能性が高いと思われます。そのほかは、正答率の低い順から、d「喚起」a「家畜」e「指摘」でした。主な誤答としては、aは家畜、cは寒暖、dは換気、eは摘を敵や適とするものがめだちました。日本語には同音異義語が多いですから、自分の知っている単語や文字ではなく、文脈にふさわしいものを選ぶように心がけましょう。それだけでも正答に近づけると思います。

問二 文脈をつかむ問題です。6割～7割の出来でした。「経験を名付けるのに用いられる発音の姿」とは、たとえばその直後に「一小動物の経験を、『イヌ』という言葉に結びつける」とありますから、具体的には「イヌ」というような、言葉そのもののことにほかなりません。言葉は発音された音のまとまりですから、イが正答となります。ちなみに、「イヌ」が「」付きでしかもカタカナで記されているのは、発音されたものであることを表しています。

問三 前後の文脈や図1を参考にして解く問題です。Aは8割程度、B～Dは6割ほどの正答率でした。誤答としては、Bを言語としたものがありました。言葉と言語は意味が異なります。前者は具体的な一つひとつの単語を意味し、後者はその総体である、日本語、中国語、英語などといった段階のものを意味しています。当然この文章でもそのように使

い分けられていますし、この文章中に言語という言葉が出てくるのは一か所だけです。本文で論じているのは、経験と言葉と意味についてなので、言葉が正答です。

問四 まとめている部分を抜き出す問題です。ここではすぐ後に「要するに」とありますので、そこに書かれている能力の部分を抜き出せばよいことになります。非常によくできていました。

問五 「経験の意味」とはどのようなものかについて書かれているのは、選択肢の中でエだけです。意味には、概念(抽象的・辞書的な意味)だけでなく、個人個人の経験に彩られた意味があり、「経験の意味」とは後者を指しています。これら二つの意味がバランスよく結びつくことが大切だというのがこの段落での筆者の主張です。4割ほどの出来でした。

問六 要約する力を見る問題です。何ができるようになるかは、「言葉をより多く身につけることは」に続く述語部分に書かれていますので、その部分を要約します。書くべきことは二点あります。一つは異なる経験を弁別する力をつけること(4点)、もう一つは経験したものを最もふさわしい言葉で表現すること(4点)です。ただし、要約文としてのまとめ、助詞の使い方、誤字、文字数の過不足などは必要に応じて減点しています。

問七 筆者の答えが書かれている部分を探す問題です。あとに「○○○○に極めて重要だということに他ならない」とあるので、ここの四字を答えればよいということになります。6割ほどの出来でした。

問八 i「涙が出るほどうれしい」 ii「とび上がるほどうれしい」の意味の違いが理解できているかどうかをみる問題です。7割ほどの出来でした。私たちはこのように、状況によって言葉を使い分けているのだということがよくわかるとともに、意味を説明する筆者の手際の良さを実感することと思います。

問九 「経験と言葉と意義のセット」を単純に言い換えている言葉を選択してもらうことを意図した問題です。6割ほどの出来でした。

問十 文章の内容理解を問う問題です。ここでは、趣旨と合致していないものを選ぶ必要があります。ウ・エは問題なく趣旨に合致していますが、ア・イで迷うことになるでしょう。イは直接本文で言及されていませんが、心的経験などが個人のものであるとい

うエピソードや「ひとりひとりにおいて実現していく」という表現があるところから十分に推測できる内容になっています。アは「社会的な使用範囲では個人差は生じない」という部分がイと違っており、この点から趣旨と違っているとと言えます。また、日常的にも、言語そのものは社会的なものであるにも関わらず個人々々によってその言葉への理解度や印象が異なるという経験をしていることから、この文が誤りであることは明らかです。よって、アを選択することになります。7割ほどの出来でした。